



かりやす



2016. 1. 29(金)
津幡町立刈安小学校

刈安小学校教育理念 「夢」(希望) 「愛」(教育愛) 「信」(信頼)

日頃より、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

本年度も、本校では「学校評価」の取り組みを行ってきました。7月に第1回、12月に第2回の「自己評価」を行い、その比較結果等を取りまとめましたので、保護者の皆様方にもお知らせいたします。

この「学校評価」は、次の2点をねらいとしています。

①私たち教職員が、本校の教育活動に関して年度の初めに目標を立て、その目標達成に向けての教育活動を行い、またそれを評価し改善への方策を実行することを通して、よりよい学校づくりに向けての取り組みを進める。

②評価結果を保護者・地域の皆様にお知らせし、ご家庭や地域の皆様方のご理解・ご協力を得て、学校・家庭・地域が一体となったよりよい学校づくりをめざす。

また、この「学校評価」の取組は、児童の評価を行うものではなく、あくまでも私たち教職員の教育活動のありかたについての評価を行うものです。よろしくご理解のほどお願いいたします。

7月に行った第1回目の「自己評価」で評価結果がよくなかった項目については、職員全員で改善策を協議し、9月より取り組んできました。取組の成果が上がって第2回目の「自己評価」でポイントが良くなったものもありますし、まだ不十分なものもあります。足りなかった点については、さらに改善のための手立てを考えました。今、改善策を実践中です。

次ページにお示した表は、第1回、第2回の「自己評価」結果比較とそれを受けての改善の取組等の概要です。

◎「自己評価」結果のポイントが前回よりも上がった項目

「校内『漢字力テスト』、『計算力テスト』（『刈安チャレンジ』）で、90点以上を達成できるようにする」、「学習のまとめ・ふり返りで学んだことや次の学習への見通しをきちんと書かせる」、「家庭学習の手引き等を使って、家庭学習の内容・方法について指導し、定着に努める」、「ICTを活用した授業を行う」など

▲「自己評価」結果のポイントが前回よりも下がった項目

「早寝・早起き等が身に付くようにして望ましい生活習慣を確立させる」（評価の良好でなかった項目については、年度末、次年度に向けて改善に向けての取り組みを実践中です。）詳細は以下の評価結果をご覧ください。

なお、学校のホームページにも、この「学校評価」の結果について載せてありますので、ご覧になってください。

平成27年度学校評価 第1回自己評価(7月)・第2回自己評価(12月)の結果と今後の改善に向けての取組

自己評価結果及び結果を受けての改善策等

重点目標	具体的取組	評価規準、評価の観点	時期・評価材料	第1回結果	第2回結果	比較	第1回評価結果を受けての9月からの改善策や取組	成果と課題
								「具体的取組」ごとの ◎成果と ▲課題
基礎学力の定着と学力向上	① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組	校内『漢字カテスト』、『計算カテスト』(『刈安チャレンジ』)で、90点以上を達成できている。 【成果指標】	1,2学期末『漢字カテスト』『計算カテスト』の成績	79% C	90% A	↑	1学期末にテストを実施すると、1学期を終えるまでに90点以上に達しなかった児童がいたので、2学期末のテストだけでなく、2学期途中にも小テストを実施し、定着状況を確認しながら進めることにした。	◎単元末テストや評価テストを繰り返し実施し、定着状況をこまめに把握することで、学期末テストの合格者が増えた。 ◎ノートや作文に習った漢字を使うようにしたり誤字脱字を見逃さず指導したりしてきたことで、漢字の正答数が増えた。 ◎保護者の皆様の協力により家庭学習の取組方が丁寧に確実に became ことが学習内容の定着につながった。 ▲定着状況には個人差が大きい。前学年までの学習内容が十分に身につけていないこともあるので、個への対応をきめ細かに行っていく必要がある。
		時間の確保ができ、さわやかタイム・パワーアップタイムの取組が確実に実行されている。 【努力指標】	1,2学期末教員アンケート	100% A	100% A		さわやかタイムとパワーアップタイムの時間を有効に使って、学習内容を定着させるようにしてきた。	◎授業の流れを「課題設定→自分の考えを持つ→追究→まとめ→ふりかえり」の課題解決の過程として全校で統一した授業づくりと指導を行うことができた。 ◎授業の導入部で、前時のまとめやキーワード等をふり返る学習活動を行ったことにより児童の活用への意識が高まった。 ◎ノートの書き方を共通実践するとともに、ふりかえり・まとめの書き方についても全校的な取組を行うことができた。
	② ★つきたい力を確実ににつける授業の推進	課題提示から、まとめまで一貫性・整合性ある授業をしている。(板書計画の充実) 【努力指標】	1,2学期末教員アンケート児童の学習履歴やノート等	100% A	100% A		「学習のまとめ」「学習のふりかえり」をもとにした「キーワード」をホワイトボードに書き残しておき、毎時間の授業の導入部で前時の内容を想起することで、本時につなげるとともに、本時への活用を意識付けた授業設計をしてきた。	▲思考力を伸ばすための演習問題等をさらに充実させていく必要がある。 ▲振り返りのさせ方について、さらに効果的な指導を模索したい。 ▲児童が主体的に進める授業を創り、学習に向かう姿勢が高まってきたが、深めたり活用する力を伸ばす場面をより明確に意識した意図的な授業づくりを行う等の授業改善がさらに必要である。今後も、少人数の利点を生かし、個に寄り添った指導・支援を充実させたい。
		「学習のまとめ・ふりかえり」では、学んだことや次の学習への見通しがきちんと表現できている。(ノート指導の充実) 【成果指標】	1,2学期末教員アンケート児童の学習履歴やノート等	50% C	100% A	↑	教師自身の授業力を高めるためにもノートの書き方について全校で統一した基準を作り、共通理解し、児童にも提示した。また、全校児童のノートを学習指導部が月1回集め、指導の状況を確認し、改善策を提示した。	
		授業を通して身につけたことを次の学習に生かしたり、実際の生活で役立てたりすることができたと意識している。(活用力の向上) 【満足度指標】	1,2学期末児童アンケート	100% A	100% A		『刈安タイム』での「活用する力を試す問題」の強化を図る。 『パワーアップタイム』でも「活用する力を試す問題」の演習の時間を設定し、全校的な取組とする。	
③ 家庭学習の習慣化	家庭学習の目安の時間が守られている。(1年:20分,2年:30分,3年:40分,4年:50分,5年:60分,6年:70分) 【成果指標】	1,2学期末保護者アンケート	69% C	75% B	↑	9月初めに保護者の皆様に家庭学習のコメントの協力を求め、そのコメントに対し、担任も感謝の言葉を返すようにした。	◎保護者の協力により、丁寧に学習する姿勢は身につけてきた。 ◎本校版『家庭学習の手引き』に沿って、家庭学習の内容・方法面について、共通した指導を行うことができた。 ▲家庭学習の定着状況については個人差が見られる。決められた時間学習しているとは言えない児童がいる。2学期は、保護者にコメントをお願いしたため、家庭学習どんどんカードの取組を行わなかった。3学期は『家庭学習どんどんカード』を実施し、定期的な見取りを強化するようにする。	
	家庭学習の内容、方法を指導し、児童が何をどのようにすればよいのかを明確にしている。 【努力指標】	1,2学期末教員アンケート	83% A	100% A	↑			
④ 学習規律の定着	教師は、『刈安っ子の学習』をもとに、全校一致して指導にあたっている。 【努力指標】	1,2学期末教員アンケート	100% A	100% A		全校一致して、刈安っ子の学習が児童の身につくように取り組んでいく。	◎学習規律、学習準備等に関して、『刈安っ子の学習』をもとに指導を行うことができた。 ◎定着状況については、時機に応じて数回の見取りを行うことができた。また、「話す・聞く」だけでなく、「学び合う」についても自己評価の項目に加え、意識させた。 ▲より全校的な取り組みへと高め、学級間の格差をさらに解消していく必要がある。	
	児童は、『刈安っ子の学習』等の学習のきまりを守っている。 【満足度指標】	1,2学期末児童アンケート	100% A	95% A				
⑤ 情報機器を活用した授業の推進	大型テレビやタブレットを使った授業を月に1回は行っている。 【努力指標】	1,2学期末児童アンケート	75% C	100% A	↑	効果的な活用法について、教員自身が研修を深める。	どの教員もICTを活用した授業づくりに対する意識を高め、互いに協力し合って効果的に活用することができた。	

		★教員の授業力を高める校内研究の推進	校内研究の重点を日々の授業で実践し、授業改善を図っている。 【努力指標】	1, 2学期末 教員アンケート	100% A	100% A			◎1人2回以上の研究授業に加えて、『相互授業参観期間』を設定し、互いの授業を見合い、学び合う体制作りができた。 ◎授業評価表をもとに、一人一人の授業課題を明確にした授業研究を促進することができた。 ◎教委・金沢教育事務所のご指導等により、授業改善の視点が明確となり、学校研究の重点や内容を更新させながら改善を進め、共通実践を図ることができた。 ◎児童主体の授業づくりを追究し、児童に力をつけることで教員自身の授業力の向上を図ることができた。 ▲教員個々のさらなる資質向上に向けて、教材研究や授業研究の質的な深まりを求めていく必要がある。
2	豊かな心を育む教育の推進	① 心が通い合う生徒指導の充実	児童理解の会での共通理解と共通指導の徹底、人間関係づくりに関する校内研修会の開催等により、児童のよりよい人間関係の構築に努めている。 【努力指標】	1, 2学期末 教員アンケート	100% A	100% A			◎職員全員で児童を見守る組織づくりに努めることで、児童同士の温かく励まし合う人間関係の構築を図ることができた。 ▲どの児童も、学校の外でも、互いを認め、励まし合う温かい言葉遣いや行動ができるようになることを願う。
		② 読書活動の推進	『読書の旅』等の啓発活動において、目標値を達成できている。 【成果指標】	1, 2学期末 読書記録等	100% A	95% A	↓		◎図書館司書の力添えもあり、図書館利用指導を強化し、読書活動が日常化している。 ▲さまざまな取組により読書の量的な面は向上している。目標値に達しない児童の読書量を増やすために、質的な面の向上に資する取組を強化することが望まれる。
		③ 道徳教育の充実	学校訪問や学校公開時に積極的に保護者や地域の方々に道徳の授業公開を行っている。 【成果指標】	1, 2学期末 授業公開を行った回数	100% A	100% A		道徳推進教師の働きかけにより、授業公開への意識を高めている。	◎学校公開日、授業参観等を通して、全ての学級担任が複数回の公開を行うことができた。道徳推進教師の働きかけも効果的であった。
			道徳の授業では、学校行事や特別活動、実生活等との関連付けをしながら、道徳的な実践力が高まるように努めている。 【努力指標】	1, 2学期末 教員アンケート	100% A	100% A		道徳教育別業の作成により、道徳の授業と関連させて学校生活全体の中で道徳性を育む意識を高めている。	◎各教室に『道徳コーナー』を設置するなど、授業を核として、日常の学校生活全体において、道徳的な価値についての認識が高まるように工夫した。 ◎道徳教育別業の作成により、道徳教育を学校教育活動のすべてにおいて行うという意識が高められた。
		④ 特別支援教育の推進	一人一人のニーズに応じた指導を計画的に実践している。(個別の支援計画の作成、情報の共有、校内研修の推進) 【努力指標】	1, 2学期末 教員アンケート	88% A	100% A	↑	特別支援学級だけでなく、通常学級の児童についても学習面や生活面で困っていたり不安を感じていたりする児童がいらないか全職員で見守る。	◎専門の先生を招いて校内研修会を行い、効果的な指導や支援の仕方について教えていただいたことで、支援が必要と思われる児童の学習面での向上が見られる。
		⑤ 幼稚園・保育園との積極的な情報交換による相互理解の推進	授業(保育)参観等の保・小連携の取組を年間に全校で5回以上行い、積極的な交流ができている。 【成果指標】	1, 2学期末 連携・交流の機会の回数	100% A	100% A			◎隣接する寺尾保育園とは、日常的に連絡を密にし、交流活動を計画通りに行うことができた。
		⑥ 中学校へのスムーズな接続に向けての取組の充実	授業参観等の小・中連携の取組を年間に全校で5回以上行い、積極的な交流ができている。 【成果指標】	1, 2学期末 連携・交流の機会の回数	100% A	100% A			◎校区の中学校と連携し、スムーズな小・中の接続に向けて、種々の取組を行うことができた。
3	体育・健康・安全教育の充実	① 基本的な生活習慣の確立	「早寝・早起き・朝ご飯・あいさつ」が身につく生活習慣の確立が図られている。 【成果指標】	1, 2学期末 保護者アンケート	84% A	75% B	↓	校内の挨拶をより自主的にできるようにすることと地域でも自分からできるように指導していく。	▲挨拶についてはお客さんや地域の方にもより自主的にできるようになったように見えるが、まだ個人差があると思われる。「早寝」に関しては、1月の生活目標を「早寝早起きをしよう」に変更し、「睡眠チェック表」を実施することにした。保護者にも協力依頼をしていく。
		② 体力向上の取組の推進	休み時間や放課後等に、積極的に体を動かす運動をしている。 【成果指標】	1, 2学期末 児童アンケート	100% A	95% A			◎「スポチャレ」の取組や体力テスト結果等を受けての補強運動等の取組を通し、運動の楽しさを実感する児童が増えている。 ◎体力テストの結果をもとにして、本校児童の弱い部分を補強する取組を行っている。
		③ 健康・安全教育の推進	避難訓練や防災訓練等を通して、非常変災発生時の緊急行動、避難行動の仕方等を理解し身に付けることができています。 【成果指標】	1, 2学期末 教員アンケート	100% A	100% A			◎保育園、公民館と合同開催の地域ぐるみの合同防災訓練を実施することができた。ふだんからの防災意識の高まりに資する効果的な取組となった。 ◎その他の訓練や防犯教室の取組も児童の防災・安全意識の高揚につながっている。

4	地域との連携の推進	① 地域のよさの積極的な情報発信	HP、学校や学級のたよりの発行を通して、地域のよさを児童に感じ取らせることができています。 【努力指標】	1,2学期末保護者アンケート	100% A	100% A			◎学校だよりやHPを通してこまめに日常の教育活動を広報するようにしている。特に、HPはほぼ毎日更新している。
		② 地域素材や人材の積極的活用	地域の素材を元に、学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして、地域の教育力を積極的に活用している。 【成果指標】	1,2学期末教員アンケート	100% A	100% A			◎今年度も、地域や町等の人材を生かした授業づくりを推進した。総合的な学習の時間だけでなく生活科や社会科などいろいろな教科、クラブ活動で地域素材や人材を活用した。
		③ 地域の文化や伝統、人を大切にしようとする心身の醸成	『源氏太鼓』、『俱利伽羅峠の歌』等の発表、米作り体験等の体験を通して、他とのかかわりを意識し、地域のよさを感じ取り、規範意識や郷土愛を深めている。 【満足度指標】	1,2学期末教員アンケート	100% A	100% A			◎収穫感謝祭での俱利伽羅峠の歌や寺尾祭りでの刈安ソーランの発表に全校児童で取り組むことが、地域のよさや郷土愛を育むことにつながっている。 ◎米作りやPTA行事などの体験も、児童がPTAや地域の方々への感謝の気持ちをもって参加し、ふるさとに対する誇りや愛情を高める効果的な取組となっている。
5	安全安心な教育環境づくり	① 児童が安全安心に過ごせる教育環境の整備と管理	学校の教育環境(教室・廊下・校庭など)が安全に整えられている。 【満足度指標】	1,2学期末保護者アンケート	100% A	100% A			▲前期同様「学校は子ども達の安全・健康に注意を払っている」の問いは100%肯定的回答だが、「学校の教育環境(例えば図書室、運動場、遊具など)が整えられている」の問いは80%の結果であった。子どもをいろいろな遊具で遊ばせてあげたいという保護者の思いにどのように応えるか検討している。
					79% B	80% B	↑		

保護者の方からのコメント

- ①外で遊ぶ遊具があったらいいなと思います。
→ 新たな遊具を購入することは難しいので、体力づくりができる用具や備品を工夫します。
- ②学級だよりを増やしてほしいです。どこへ行ったかとかだけでなく、このような勉強をしているとかや、この質問に対して子どもは何通りの意見を出したなど。写真がなくとも学校の様子を見たいです。
→ 学級により発行回数や内容に違いがありましたので、ご指摘を受けた学級ではご意見のように内容を充実させていきたいと思っています。また、他の学級においても同様に一層努力していくことを共通理解しました。

★「第2回学校関係者評価委員会」を開催しました

1月27日に「学校関係者評価委員会」を開催いたしました。前回の「学校関係者評価委員会」では、学校評価の取組と自己評価の結果等について、説明させていただきました。その後、委員の方々からいただいたご意見をふまえて、その後の学校としての取組の改善に活かしてきました。

今回は、第1回自己評価(7月)からの改善に向けた取組と第2回自己評価(12月)の結果の比較について説明し、特に、本校の課題であろうかと思われる何点かの評価項目について、委員の方々からご意見を頂戴しました。今後の私たちの取組の参考となる貴重なご意見をたくさんいただきました。今後、そして次年度の学校づくりに生かしていく所存です。

【関係者評価委員会で頂いたご意見等(会議録より一部抜粋)】

- 学力について
 - ・学校は学力向上に力を注いでいるが、人は学力だけで判断できない。子どもにはいろいろな個性や特性がある。成績が良くても人として欠ける面のある大人もいる。大人になってから人として正しく生きていく力を身に付けてあげてほしい。そのために、小学校のこの時期にこそ子ども一人一人の「個性」を伸ばす教育をしていただきたい。
 - ・小規模校では、少人数でも学年として町や県の目標値に子どもを引き上げることが期待される。子どもにストレスがかかりすぎないように、個に応じた目標設定をしてあげてほしい。
 - ・子どもアンケートに授業が「楽しい」「つまらない」という質問があるが、授業は単に楽しいだけではなく達成感や充実感を感じ取れるものにしてほしい。
- 基本的な生活習慣に関して
 - ・挨拶そのものには、向上がみられるが、個人差がある。挨拶の質に着目し、その向上をはかってほしい。相手の目を見て気持ちが通う挨拶を推奨してほしい。
- 地域との連携に関して
 - ・ホームページは、よく更新されており、評価できる。
 - ・地域との連携の大切さは、児童より保護者にこそ気付いてほしい。PTA以外の(子や孫が学校にいない)人たちの協力が得られるようになるとうよい。
- 教育環境づくりに関して
 - ・運動場に遊具を増やすことができなければ、校舎内の廊下が広いので有効活用できないか。
- その他
 - ・宿題への保護者コメントは効果はあるが、あまり強調すると親がプレッシャーを感じてしまうところもある。